

第7章 さらなる展開へ～bプラン活動単位版（仮称）～

生物多様性の保全・再生・創造の取組を進めるためには、市民・企業・学校など各活動主体による実践が不可欠であり、各主体間の有機的な連携や、より一層の活性化が求められます。

また、環境に対する市民・企業の普段の関わり合いや行動、持続した取組がカギとなることから、行政のみが計画を策定、進行管理、見直しを行うのではなく、新しい計画づくりが必要となります。

1 bプラン活動単位版（仮称）

「bプラン活動単位版（仮称）」は環境活動団体、地域、企業、学校など様々な主体が様々な場ごとに、あるいは相互に連携しながら作成する行動計画です。

それを横浜市に随時寄せていただき、横浜市は行政計画である生物多様性横浜行動計画「生物多様性横浜行動計画(ヨコハマbプラン)」の両輪を為すものとして、誰もが分るようにつなげ発表していきます。あらゆる主体が持っている、生物多様性の保全・再生・創造を巡るそれぞれの『思い』や『夢』をヨコハマbプランにつなげ、横浜全域全体へアピールすることがねらいです。そして、一つひとつの具体的取組を市民・企業・行政の、共通の目標のもと、新たな段階へと発展させていきます。

横浜市民全員で取り組み、日々成長していく。それが「生物多様性横浜行動計画(ヨコハマbプラン)」の目指す姿です。

2 連携・交流の場づくり

まずは、市民団体等・企業・地域・学校などの連携・交流の場づくりを進め、市内の活動状況を見える化し、連携のきっかけづくりや活動の質の向上へつなげていきます。

「成長し続ける行動計画」はこれまでに無い、まったく新しい取組です。実現までには多方面からの検討、そして試行錯誤が必要となります。

各主体の皆様と一緒に「bプラン活動単位版（仮称）」のあるべき姿について議論を深めていきながら、実現を目指します。

■展開のイメージ

